

農業法人における人事評価に関するアンケート調査結果

○アンケート結果の概要

アンケートは2023年6月～8月にかけて実施した。アンケート票は郵送で配布し、配布数は395法人、うち回収数は138法人、回収率は35%であった。回収数について、主作目別にみると、養豚経営が46法人と最も多く、次に酪農、肉用牛、採卵鶏と続いている。

表1 アンケート調査の概要

調査対象	日本農業法人協会会員（畜産経営を対象）	
調査期間	2023年6月～8月	
調査方法	郵送	
配布数	395	回収数 138（回収率 35%）
回収数の内訳（主作目）	酪農 28、肉用牛 27、養豚 46、採卵鶏 24、ブロイラー 11、その他畜産 2	

○法人の従業員数

農業法人の従業員数についてみると、「10～19名」が44法人と最も多くなっており、20名以上の従業員がいる法人も多い。正社員数に限定すると、正社員数「1～4名」が38法人と最も多くなっており、正社員10名未満の法人が多くなっている。

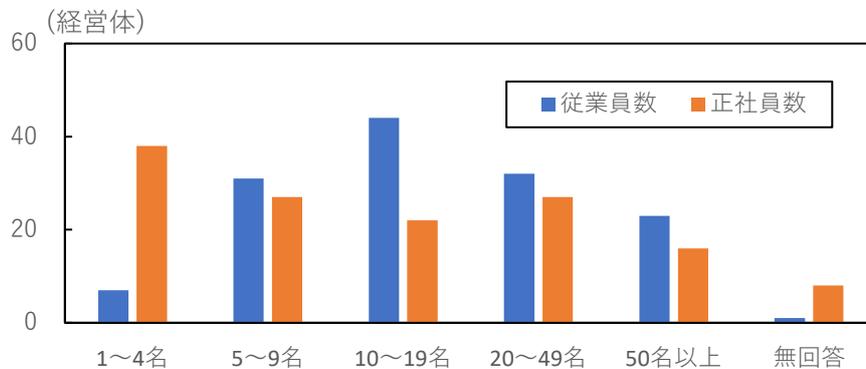


図 調査法人の従業員数、正社員数

○法人の直近3カ年の経営状況

法人の経営状況を見ると、売上に関しては、直近3カ年で増収になっている経営が全体の42%を占めており、最も高い割合を占めている。売上が横ばいの法人も多く、直近3カ年で減収した法人は13%にとどまる。一方、経常利益についてみると、減少した割合が48%と半数近くに達しており、多くの法人で近年経常利益が減少し、経営が厳しくなっていることがわかる。

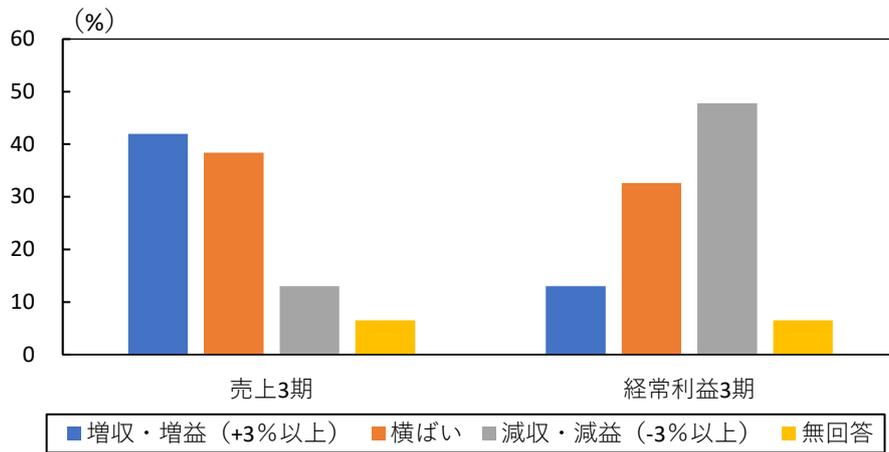


図 売上と経常利益の直近3期内の傾向

○直近3年間の正社員（新卒）の採用状況

直近3年間の正社員（新卒）の採用状況をみると、「予定した人数を全て採用できた」と回答する経営は30%にとどまる。「採用はしたが予定数に満たなかった」が30%、「募集したが採用できなかった」が12%を占めており、募集はしたものの、予定していた採用者を確保できなかった経営が多くなっている。

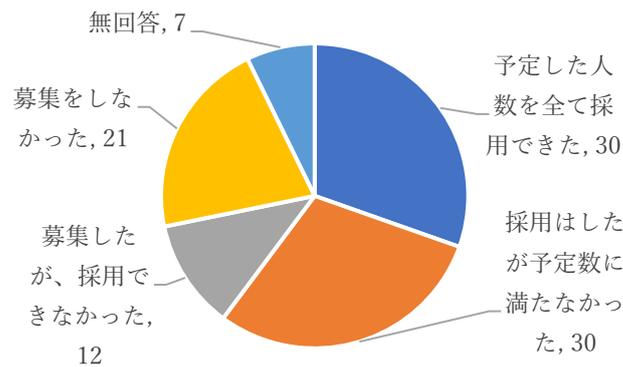


図 直近3年間の正社員（新卒）の採用状況

○正社員の給与水準

正社員の給与水準についてみると、入社3年目では平均年収が309万円、主任クラス（平均勤続年数8.8年）で383万円、農場長クラス（平均勤続年数13.4年）で491万円となっている。農場長クラスでは、500万円近い給与水準に達しており、一定の給与を得ていることがわかる。

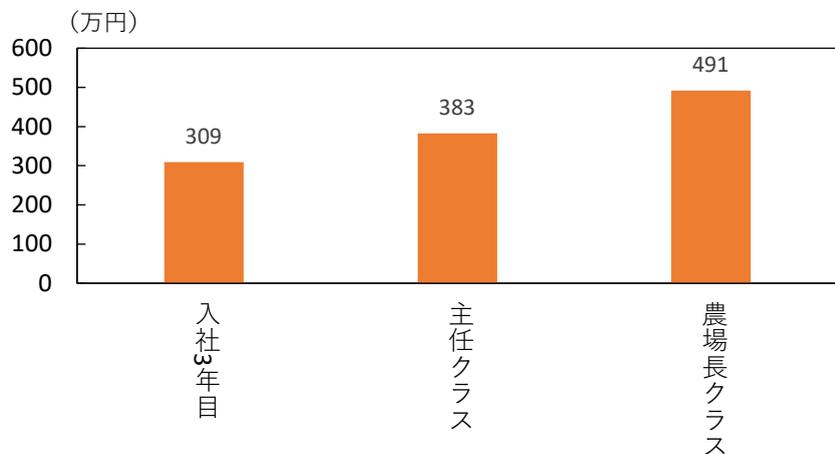


図 正社員の給与水準

○人事評価の項目、基準の明文化の状況

従業員の人事評価の項目、基準の明文化の状況を見ると、「明文化している」は22%となっており、明文化している割合は少ない。従業員数が少ない法人を中心に、明文化していないケースが多いと考えられ、「明文化する予定はない」法人も33%と一定の割合を占めている。最も多いのは、「明文化していないが今後する予定」(41%)であり、人事評価項目、基準の明文化が今後の課題になっていることがわかる。

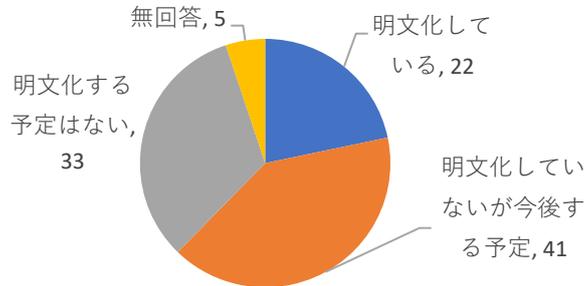


図 人事評価の項目、基準の明文化の状況

○従業員の人事評価の際に重視するもの(1位～3位)

従業員の人事評価の際に重視するもの(1位～3位の合計)を見ると、「仕事の成果」を挙げる経営体が最も多く、97法人にのぼる。次に、「協調性やチームワーク」、「仕事に関する創意工夫」が続く。最も重視するもの(1位)に限定してみると、「仕事の成果」をあげる法人が最も多く、成果が重視される傾向にある。一方、全体的な傾向として「社内での経験年数」、「会社への忠誠心」を挙げる割合は低く、経験年数、忠誠心に関しては重視していない傾向がみられる。また、「専門的知識・技術の高さ」についても「協調性やチームワーク」と比べると低くなっており、専門的な技術よりも性格などが重視されている傾向がみられる。

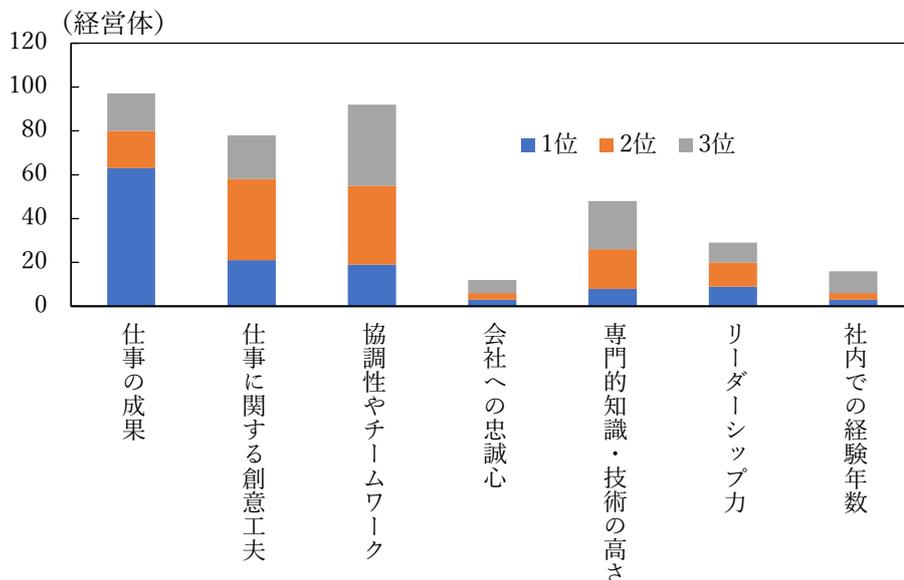


図 従業員の人事評価の際に重視するもの

○人事評価の効果

人事評価が従業員や経営に与える効果について、5段階で評価(5…そう思う、4…ややそう思う、3…どちらともいえない、2…ややそう思わない、1…そう思わない)してもらい、平均値をみたのが図である。

図をみると、「仕事へのモチベーションが向上する」が3.7と最も高くなっており、次に「給与や賞与の判定が容易になる」、「従業員の職務遂行能力が向上する」の点数が高い。各設問の平均点はすべて3.0以上となっており、すべての項目で何らかの効果があると判断していることがわかる。ただし「取引先、地域への配慮が高まる」の効果については3.2と他の項目に比べて低くなっており、主に経営内部への効果が中心であることがわかる。

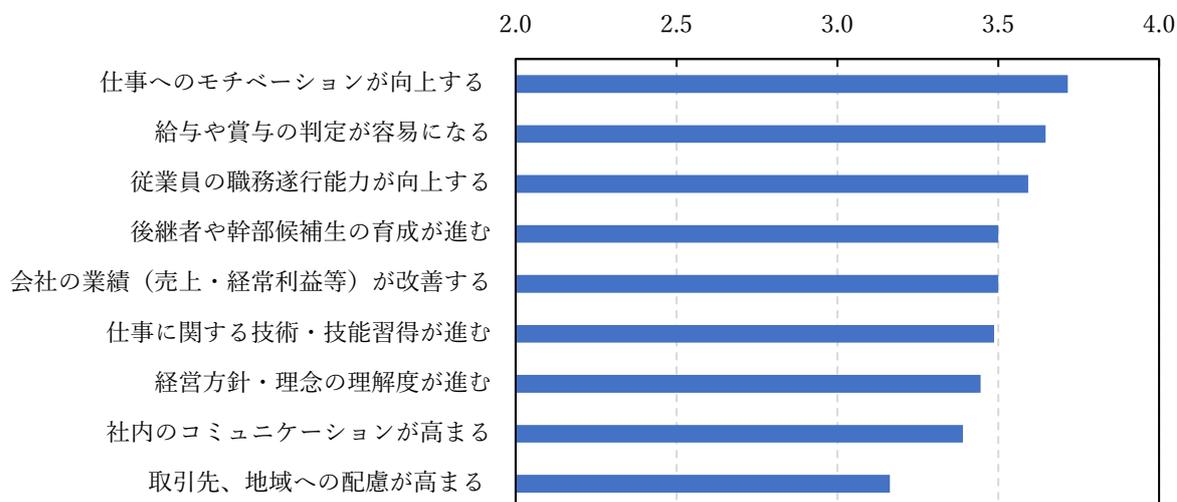


図 従業員の人事評価の効果

○従業員の人事評価の課題

現在の人事評価の課題について同様に5段階で評価してもらい、平均値を示したものが図である。「現在の人事評価に課題がある」については5段階評価で平均3.7点となっており、多くの法人において人事評価が課題になっている。各具体的な項目についてみると、人事評価の課題として最も点数が高いのは「評価がマンネリ化し、同じ評価になる」であり、3.4点となっている。次に「評価者（経営者）の作業負担がかかる」、「具体的な評価基準を定めることができない」の項目が高い点数となっている。その一方で「人事評価にかかる運営コストがかかる」、「外部に協力者がいない」、「評価によって従業員の関係が悪化する」といった項目に関しては、3点を下回っており、あまり課題になっていないことがうかがえる。

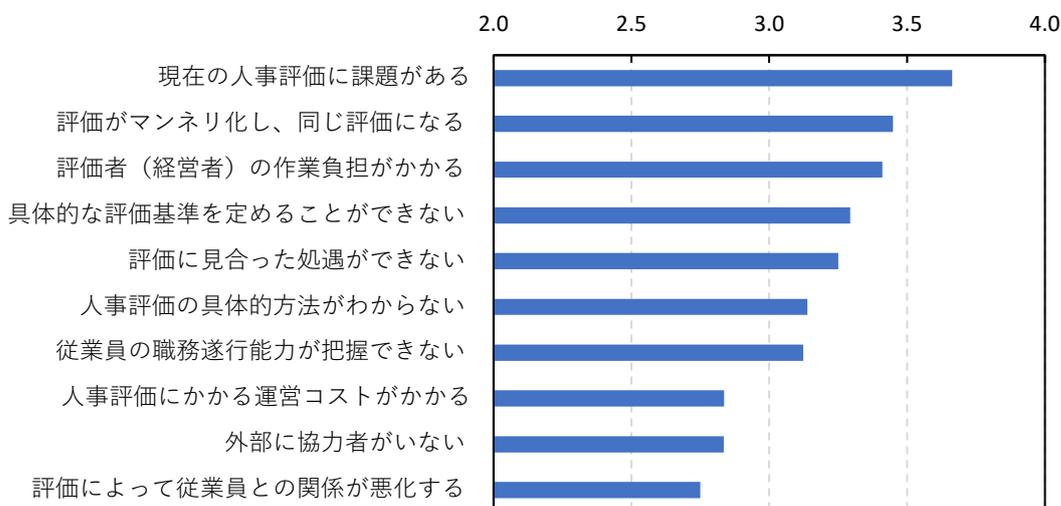


図 従業員の人事評価の課題